

＜果実談義＞秋口から木や草の実を度々採り上げていますが、“果実”とか“実”とか“種”とかの言葉の使い分けがいささか気になっておりました。“果実”は果物のイメージで柔らかいもの、“種”は麦とか豆を思い浮かべます。“実”は「この豆はよく実が入っている」、「実のある言葉」なんて風に使いますから中身を指しているようにも思えます。そこで整理のため調べてみました。法律用語にも“果実”はあるのです。生物学上の“果実”は「被子植物の種子をその中に含んだ構造体で、単に実(み)とも言う」そうです。リンゴやナシは無論のこと脱穀していないムギもイネもそして鞘ごとのマメも“果実”。鞘の中のマメひと粒一粒が“種子”。寒空の下に見られるのがヤブコウジやシャリンバイの果実、クヌギのドングリも果実ですね。ところでヒノキやスギの実はどう言うのでしょうか。また種と種子はどう使い分けるのでしょうか。漢字では「種(species)の起源」と「種(seeds)まく人」のような違いがありますから……。



＜ヤブコウジ＞



＜シャリンバイ＞



＜クヌギのドングリ＞



＜ヒノキの実＞

＜冬越しの準備＞木々は種類によって色づいてから葉を落とす時期にかなりの差がありますね。コブシはあっという間に実も葉も落とし綿毛に包まれた大きな芽を付けて冬越しの準備万端、後は春を待つのみという感があります。イチヨウやムクも葉を落とすのが早くクヌギやナラがその後でしょうか。ハリギリはまだ沢山葉を残しています。ツル植物もほとんど葉を落としています。ヘクソ



＜ヘクソカズラの実＞



＜タチドコロの黄葉＞

カズラは枯れた蔓に実だけを付けています。ヤマノイモは春が来てもどこから芽を出すかもはや分かりません。ところが黄色く色づき透けるような葉っぱを沢山付けたタチドコロが1本だけ生

えていました。しかしこれも一日二日であっというまに蔓だけになってしまいました。＜虫をくわえたハクセキレイ＞
＜しわす＞この時期は年の瀬を控えお坊さんを始め“師”の付く職業の人たちが慌しく走り回るので“師走”。一方、慌しさは微塵も無くアスファルトの路面や砂利道を滑るように走るハクセキレイをよく見かけます。「かくあるべし」ですね。



(文と写真：松本正勝)